様式２

調　査　研　究　結　果

観点	種目	発行者	教科書名
	特別の教科　道徳	２・東書	新編　あたらしい　どうとく　１ 新編　新しい　どうとく　２ 新編　新しいどうとく　３ 新編　新しいどうとく　４ 新編　新しい道徳　５ 新編　新しい道徳　６
取扱内容	○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第１学年～　「おうだんほどうで」において、登場人物と同じようにお辞儀をしたり、やってみてどう思ったのかを友達と話し合ったりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動 第２学年～　「いそいでいても」において、登場人物になって、挨拶をしてみたり、やってみてどう思ったのかを友達と話し合ったりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動 第３学年～　「ＳＬ公園で」において、登場人物の行動の問題点について考えたり、将来の自分に向けてメッセージを送ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第４学年～　「大きな絵はがき」において、登場人物の悩みについて考えたり、自分が友達関係で生かしたいことを考えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第５学年～　「駅前広場は自転車置き場？」において、「子ども会の参加者」として、提案について話し合ったり、きまりが守られる社会にするために必要な心構えについて考えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第６学年～　「修学旅行の夜」において、自由と自分勝手の違いは何かについて考えたり、自由ではなく自分勝手だったことはないか自分を振り返ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 ○いじめに関する教材数 １年８　２年５　３年６　４年４　５年４　６年４		
内容の構成・排列	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、自分の考えを可視化し、友達と考えを比べ、多様な感じ方や考え方があることに気付くことができる「考えるためのツール」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができる工夫 ・問題解決的な学習については、各学年に、道徳的価値に根差した問題を見付け、多面的・多角的に考えながら話し合う学習指導過程の提案として、「問題を見つけて考えよう」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるような工夫 ・体験的な学習については、各学年に、「演じて考えよう（役割演技）」や「やってみて考えよう（動作化）」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫 ・北海道に関する題材は、５年生に２つの題材が示されている。		
使用上の配慮等	○　各学年に、道徳科の授業で養われる道徳性をイメージしながら学習に取り組めるように、「心のちから」や成長を実感できる「学習の記録」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　各学年に、「どんな学びをするのかな？」や自分の考えを可視化し、話し合い活動を促すためのツールを配置し、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　全ての児童が学習しやすいよう、ユニーバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮する（全学年）とともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、「コンピュータで学びを広げよう」を活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。音読データなどもあり障害のある児童への配慮がされている。		

その他	

様式２

調　査　研　究　結　果

<table>
<tr><td rowspan="2">観点</td><td>種目</td><td>発行者</td><td>教科書名</td></tr>
<tr><td>特別の教科　道徳</td><td>17・教出</td><td>しょうがくどうとく１　はばたこうあすへ
小学どうとく２　はばたこう明日へ
小学どうとく３　はばたこう明日へ
小学道徳４　はばたこう明日へ
小学道徳５　はばたこう明日へ
小学道徳６　はばたこう明日へ</td></tr>
<tr><td>取扱内容</td><td colspan="3">○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。
第１学年～　「こくばんとうばん」において、登場人物の続きの言葉を考えたり、にっこりと笑った役になって演じたりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動
第２学年～　「あいさつのしかた」において、登場人物になって、挨拶をしてみたり、やってみてどう思ったのか、友達と話し合ったりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動
第３学年～　「新聞係」において、新聞係の問題点について考え、発表したり、みんなから喜ばれる新聞を作るための解決方法を話し合ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第４学年～　「プロレスごっこ」において、クラスの問題点について考え、発表したり、自分がクラスの一員だったら、どうしたいかを発表したりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第５学年～　「図書館はだれのもの」において、自分が「わたし」だったら、どうするのかについて話し合ったり、身のまわりにあるきまりは、何のために作られているのかを考えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第６学年～　「○○しながら」において、複数のことを同時にやって失敗した際の問題点について考えたり、事例の共通点、異なる点、問題の重さについて話し合ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
○いじめに関する教材数
１年４　２年４　３年６　４年２　５年４　６年５</td></tr>
<tr><td>内容の構成・排列</td><td colspan="3">○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。
・言語活動については、各学年に、児童が話し合ったり、自分の考えをまとめたりするため「学習のてびき」に「考えよう」「深めよう」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができる工夫
・問題解決的な学習については、各学年に、児童が自ら課題を見つけ、友達と議論を重ねながら課題の解決方法を見いだすための「学習のてびき」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるような工夫
・体験的な学習については、各学年に、演じたり、話し合ったりしながら自分の考えを発表する「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫
・北海道に関する題材は、４年生以上に複数取り上げられている。</td></tr>
<tr><td>使用上の配慮等</td><td colspan="3">○　各学年に、道徳の学びへの意識を高めながら、見通しをもって学習に取り組める「学びのガイダンス」や各教材末に学習を振り返る「学びチェック」欄を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。
○　各学年に、「道徳ではこんな学び方をするよ」や教材での学びをさらに深め充実させる「タブレットを学習に生かそう」を配置し、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。
○　全ての児童が学習しやすいよう、ユニーバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮する（全学年）とともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、「まなびリンク」を活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

様式２

調　査　研　究　結　果

<table>
<tr><td rowspan="2">観点</td><td>種目</td><td>発行者</td><td>教科書名</td></tr>
<tr><td>特別の教科　道徳</td><td>38・光村</td><td>どうとく１　きみがいちばんひかるとき
どうとく２　きみがいちばんひかるとき
どうとく３　きみがいちばんひかるとき
道徳４　きみがいちばんひかるとき
道徳５　きみがいちばんひかるとき
道徳６　きみがいちばんひかるとき</td></tr>
<tr><td>取扱内容</td><td colspan="3">○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。
第１学年～　「二わのことり」において、小鳥の話したことを考えたり、演じたり、演じているのを見たりした後、思ったことを話したりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動
第２学年～　「けんかをしたけど」において、好きなことを理由と一緒に伝えたり、伝え合ってよかったことを出し合ったりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動
第３学年～　「なおとからのしつもん」において、なおとの質問に、どう答えるかを考えたり、公平に接することができる人が大切にしていることを話し合ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第４学年～　「みんな同じだったら」において、自分の特徴は、どのようなところか、マップを使って書き出したり、自分のよいところを書いてもらったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第５学年～　「みんな、おかしいよ！」において、登場人物の言い分を整理したり、相手と理解し合うためには、どのようなことが大切なのかを考えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第６学年～　「子ども会のキャンプ」において、謝る人と、謝られる人を交代して、言葉をかけ合ったり、言葉をかけ合って、よかったことを話し合ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
○いじめに関する教材数
１年６　２年６　３年８　４年５　５年７　６年５</td></tr>
<tr><td>内容の構成・排列</td><td colspan="3">○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。
・言語活動については、各学年に、児童から考えを引き出し深めていくさまざまな手立て「道徳で使う言葉」「考えよう・話し合おう」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができる工夫
・問題解決的な学習については、各学年に、学んだことを自分に引き寄せて考えたり、問題を解決するためにはどうすればよいかを考えたりするための「学習のてびき」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるような工夫
・体験的な学習については、各学年に、演じている人の表情やしぐさをよく見て、言っていることをよく聞いて、考える「演じて考えよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫
・北海道に関する題材は、４年生以上に一つ以上示されている。</td></tr>
<tr><td>使用上の配慮等</td><td colspan="3">○　各学年に、期待感をもって学習に向かい、１年間の学習を見通すことができるよう「道徳みちあんない」や巻末に、１時間ごとの振り返りを記録する折込「学びの記録」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。
○　各学年に、楽しみながら考えることができるよう「なんだろう　なんだろう」や、　教材を通して何を学ぶかを意識できるよう「学びのテーマ」を配置し、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。
○　全ての児童が学習しやすいよう、ユニーバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮する（全学年）とともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、デジタルコンテンツを活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。</td></tr>
</table>

その他	

様式２

調　査　研　究　結　果

観点	種目	発行者	教科書名
	特別の教科　道徳	116・日文	しょうがくどうとく　いきるちから　１、どうとくノート 小学どうとく生きる力　２、どうとくノート 小学どうとく生きる力　３、どうとくノート 小学道徳　生きる力　４、道徳ノート 小学道徳　生きる力　５、道徳ノート 小学道徳　生きる力　６、道徳ノート

取扱内容	○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第１学年～　「あいさつのあるいちにち」において、互いに挨拶をするときの気持ちを話し合ったり、挨拶をするときと、しないときを演じたりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動 第２学年～　「あぶないよ」において、自分の安全のために心掛けることを考えたり、知らない人に車に乗るように言われた場面を演じたりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動 第３学年～　「これ、全部東京産」において、東京の味を守り続けている店員の思いを考えたり、インターネットで地域で大切にしていることを調べたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第４学年～　「つくればいいでしょ」において、自分の長所を伸ばすために取り組むことを考えたり、自分のよさを友達や家族に聞いたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第５学年～　「マンガ家　手塚　治虫」において、手塚さんがマンガ家を続けられた思いを考えたり、自分のよさを伸ばすために大切にすることを考えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第６学年～　「わたしのせいじゃない」において、いじめを断ち切るための心のもち方を考えたり、いじめを止めるために、誰に話しかけるべきかを話し合ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 ○いじめに関する教材数 1年14　2年14　3年16　4年16　5年14　6年18
内容の構成・排列	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、児童が協働的な学びを進めるための「話す」、「聞く」、「書く」などの学習方法を紹介する「道徳の学び方」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができる工夫 ・問題解決的な学習については、各学年に、問題をつかむ活動や考える活動を促す発問など、児童の思考と対話を促した上で学習の参考となる「ぐっと深める」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるような工夫 ・体験的な学習については、各学年に、役割演技や動作化を通して思考を深める「ぐっと深める」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫。 ・北海道に関する題材は、2年生以上に６つ示されている。
使用上の配慮等	○　各学年に、学習意欲を高め、主体的な学習態度の育成につなげる「オリエンテーション」や道徳の時間での学びを深める「学期ごとの振り返りページ」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　各学年に、学びを広げ、深める「コラム　心のベンチ」や「導入の発問例」、「考えてみよう」、「見つめよう・生かそう」の３つの発問例を配置し、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　全ての児童が学習しやすいよう、カラーユニバーサルデザインや漢字の振り仮名に配慮する（全学年）とともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、「教科書ＱＲコンテンツ」を活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。 ○道徳ノートが添付されている。

その他	

様式２

調　査　研　究　結　果

観点	種目	発行者	教科書名
	特別の教科　道徳	208・光文	しょうがくどうとく　ゆたかなこころ　１ねん 小学　どうとく　ゆたかな　こころ　２年 小学どうとく　ゆたかな心　３年 小学道徳　ゆたかな心　４年 小学道徳　ゆたかな心　５年 小学道徳　ゆたかな心　６年

取扱内容	○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第１学年～　「あいさつでげんきに」において、友だちと気持ちをこめた挨拶の練習をしたり、一言付け加えた挨拶をしたりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動 第２学年～　「あいさつがきらいな王様」において、会話例を真似したり、合い言葉を意識して会話をしたりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動 第３学年～　「ドンマイ！ドンマイ！」において、日直の仕事を忘れた友だちへ伝える言葉を考えたり、相手の気持ちを考えた言葉を伝えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第４学年～　「貝がら」において、サッカーの試合で負けた原因について友だちへ伝える言葉を考えたり、相手の気持ちを考えた言葉を伝えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 第５学年～　「みんなの劇」において、友だちから遊びに誘われたときの断り方について考えたり、相手の気持ちを考えながら自分の思いを伝えたりするなど考えを広げたり、深めたりする活動 第６学年～　「温かいおまんじゅう」において、友だちから宿題を見せてと頼まれたときの断り方について考えたり、相手の気持ちを考えながら自分の思いを伝えたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動 ○いじめに関する教材数 １年７　２年５　３年９　４年６　５年７　６年２
内容の構成・排列	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、書いてまとめることによって理解を深めたり、整理したりするための道徳のノートの例として「まとめよう・ふりかえろう」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができる工夫 ・問題解決的な学習については、各学年に、他者の見方・考え方を確かめたり、ものごとを多面的・多角的に考えたりするための「話し合って考えてみよう」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるような工夫 ・体験的な学習については、各学年に、コミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動を行う「みんなでやってみよう!」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳　的価値の意義などについて考えを深めるような工夫 ・北海道に関する教材は３年生以上に６題材に示されている。
使用上の配慮等	○　各学年に、１年間の道徳の学習を振り返るとともに、次の学年に向けてのエールとなるような贈る言葉「ことばのたからもの」や巻末に児童が自らの学習状況を確かめる手立てとしての「学びの足あと」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされ学習の流れをつかみやすくなっている。 ○　各学年に、「道徳の時間は、こんな時間です」や考えを広めたり、深めたりする「考えよう（展開）」「まとめよう（終末）」を配置し、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　全ての児童が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインや漢字に振り仮名を付けるなどの配慮をする（全学年）とともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、デジタルコンテンツを活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
その他	

様式２

調　査　研　究　結　果

<table>
<tr><td rowspan="2">観
点</td><td>種目</td><td>発行者</td><td>教科書名</td></tr>
<tr><td>特別の教科　道徳</td><td>224・学研</td><td>新版　みんなのどうとく１
新版　みんなのどうとく２
新版　みんなのどうとく３
新版　みんなの道徳４
新版　みんなの道徳５
新版　みんなの道徳６</td></tr>
<tr><td>取
扱
内
容</td><td colspan="3">○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。
第１学年～　「金のおの　ぎんのおの」において、話の続きを考えたり、登場人物同士が話す場面を演じたりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動
第２学年～　「およげないりすさん」において、登場人物になって、問題を相談する場面を演じたり、演じてみてどう思ったのかを友達と話し合ったりするなど、グループでの話合いや役割演技を通して、考えを広げたり、深めたりする活動
第３学年～　「みんなの学級会」において、出された意見のよさについて考えたり、異なる意見が出たときの話し合いをまとめるために大切にすることを話し合ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第４学年～　「クラスたいこう全員リレー」において、登場人物の気持ちになって考えたり、自分がこの場にいたら、どんな発言をするのかを発表したりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第５学年～　「日本の『まん画の神様』」において、自分の長所を見つけたり伸ばしたりするために大切なことを考えたり、考えたことを話し合ったり、そこから考えたことを書いたりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
第６学年～　「チョモランマ清掃登山隊」において、自然と共存するために、どんなことを大切にしたいか考えて書いたり、書いたものを読み合い、感じたことを話し合ったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動
○いじめに関する教材数
１年１３　２年８　３年９　４年８　５年８　６年７</td></tr>
<tr><td>内容の構成・排列</td><td colspan="3">○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。
・言語活動については、各学年に、児童が自由に意見や感想を記録できる記入欄や、考えを深めるきっかけとなる問いとして「考えよう」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができる工夫
・問題解決的な学習については、各学年に、児童が思考を整理するための三つのステップを通した学習の流れを提案する「深めよう」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるような工夫
・体験的な学習については、各学年に、自分につなげて考えたり、話題を広げたりする「心のパスポート」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるような工夫
・北海道に関わりのある内容については、１年生から６年生まで各学年に配置されている。</td></tr>
</table>

使用上の配慮等	○　各学年に、自分を取り巻く社会へ意識を向けながら、自分自身とのつながりを探る「つながるわたし　ひろがるわたし」や巻末に１年間の学びや自らの成長を振り返る「つなげよう　ひろげよう」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　各学年に、「道徳の学習がはじまるよ」や児童が自分の考えを深めるきっかけになるマークボックスを配置し、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　全ての児童が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインに配慮する（全学年）とともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、デジタルコンテンツを活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
その他	